

保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人 葉山風の子
施設名	風の子保育園
報告者（役職）	山浦 彩子（園長）
住所・連絡先	神奈川県三浦郡葉山町上山口1658-2
	（電話）046-874-5414
	（E-mail）hayamakazenoko2020@gmail.com

○タイトル（保育計画）

もみじの木陰に憩う、おもいおもいの庭

○主な助成備品

もみじの木、木製ベンチ、フェンス、砂場

1. 保育計画策定の目的

当園は、園児一人ひとりが十分に自分を表現して、それを受け止めてもらい、自分が大事にされていることを感じられる…という体験を大切にしている。その上でみんなと一緒にいることが楽しいと思えるようになると良い。そのため、今、その子どものやりたいことを尊重し、その気持ちを大事にして保育を行っている。

当園は豊かな自然に恵まれた葉山町上山口地区にあるが、園児（特に乳児）が歩いていける距離に公園がなく、近くの下山川は、生活排水が混ざるため、大腸菌が検出され、園児が水遊びをするのに適さない。また園庭は空き地の状態であり、日陰がないため、特に日差しの強い夏場は、園庭で、じっくり遊びこむことが難しい（危険である）。

どの年齢の子どもたちも、年間を通じて園庭でくつろぎ、心地よい時間を過ごせるようにしたい。子ども一人ひとりが、自分のやりたいことを見つけ、豊かな外遊びを展開できるような保育環境を整えたいという思いから、今回の応募にいたった。

2. 具体的な実施内容

(1) 園庭の真ん中に、シンボルツリーである「もみじ」の木を植えた。

もみじを選んだ理由は、樹冠が横に広がるため、緑陰づくりに適していること。また冬には葉が落ち、冬の園庭に日光がよく射すこと。春には新緑と花、夏には爽やかな緑、秋には美しい紅葉と、季節を感じるができるためである。

子どもたちが木に登りやすいように、単株のものではなく、株立ちの木を選んだ。

(2) もみじの周りに、木製のベンチを設置した。

(3) 植栽で囲っていた三方をフェンスで囲った。また、新たなフェンスを設置する

にあたり、園庭から園舎につながる階段側にも扉を設置した。

(4) 砂場を作った。

(5) むき出しの地面を緑化するため、地面にクローバーの種を蒔いた（残念ながら根付かずに枯れてしまった）。

3. その成果と評価

(もみじの木)

主活動の時間である午前中～昼、合同保育となる夕方、どの時間帯であっても、もみじの木陰が園庭のどこかにできるため、子どもたちは、おもいおもいに園庭の中で散らばって遊ぶようになった。ゆっくりくつろぎたい子どもは木陰のある場所へ。明るい場所で体を動かしたい子どもは、陽の射す場所へというように…。



(木製ベンチ)

これまでは、園庭には子どもたちが腰をかけて、少し休むことのできるような場所がなかったが、木の周りに設置した木製ベンチでは、子どもたちは、横になってのんびりしたり、数人で集まって話をしたり、もみじの木に登ったりと、好きな遊びを展開している。

また、子どもが立ったまま作業するのに適当な高さなので、砂場から容器に入った砂を持ち寄って、お店屋さんごっこをしたり、お料理をしたり、想像力豊かに、さまざまな場面を設定した遊びが展開されている。まだ歩かない（靴を履かない）0歳児も、木製ベンチができたことで、園庭に出て、外気にふれることなどがしやすくなった。また、職員がリュックを置いたり、子どもたちが水筒を置く場所にもなっている。



(フェンスと扉)

これまでは、送迎用の駐車場側一方のみフェンスをたて、他の三方は、植栽とともに、野生動物の侵入を防ぎ、子どもたちが植栽をすり抜けて園庭から勝手に出てしまわないように、網をつかって囲っていた。また園庭に出入りするための扉もそちらにあったため、園児たちは、園庭遊びをする際には、園舎から送迎用の駐車場まで移動する必要があった。

今回、残りの三方をフェンスで囲ったことで、より安全に園庭遊びができるようになった。また園庭から園舎に上がることのできる階段側にも扉を設置したことで、園舎と園庭の距離が近くなり、トイレに行きやすくなったり、夕方遊びの際、保護者がお迎えにこられた時に、スムーズに園舎に戻れるようになった。





(園庭がリニューアルしたのは、令和2年2月中旬。卒園まで、少しの間だが園庭で遊ぶことのできた令和2年度卒園生たちが、プレートを贈ってくれた)

(砂場)

これまでは、固い園庭の土をスコップでほじくって土で遊んでいたが、砂場ができたことで、思う存分、十分な砂や土を使って遊べるようになった。また、子どもたちが園庭を掘って「土木あそび」をするため、園庭の表面に穴ぼこができて、子どもが躓いたり、雨水がたまったりしていたが、砂場ができたことで、三輪車やストライダーでの遊びがしやすくなった。砂場は園庭の園舎寄りに作ったため、園舎横にある水道から、ホースで水をひくことができ、泥遊び、土木あそびも、砂場で引き続き楽しんでいる。

野生動物が砂場で排泄しないように、砂場を使用しない時はブルーシート等を被せて

対応している。



4. 今後の課題と展望

何もない園庭であっても、園児たちは園庭に用意している乗用玩具やスコップ等を使い、園庭での遊びを楽しんでいた。しかし、園庭の環境整備をおこなったことで、園庭は子ども一人ひとりの気持ちや意欲により対応でき、豊かな遊びを展開できる空間になった。砂場で砂遊び（泥遊び）をしたい子ども、ごっこ遊びをしたい子ども、たくさん駆け回ったり、乗用玩具、三輪車やストライダーに乗って遊びたい子ども、特に何もせずゆっくりしたい子どもなど、思いおもいに外遊びを楽しんでいる園児の姿が見られる。

剥き出しの園庭の庭を緑化するべく、クローバーの種を蒔いたが、砂地で栄養分が少ない土壌であったこと、夏場の気温が高かったことなどが原因か、残念ながら枯れてしまった。時期を見計らって種を蒔き、緑の地面を増やしていきたい。緑化することにより、子どもたちが大好きなバッタやダンゴムシなどの昆虫などを園庭に呼び、さらに園庭遊びの楽しみが増えることを期待している。



(美しい紅葉)

また、砂場での遊びが充実したため、スコップやままごとなどの外用おもちゃを、選びやすく、整理しやすくするため、棚を設置したいと考えている。

園庭の真ん中に植えたもみじの木には、強い日差しが降り注ぐため、葉焼けを起こすリスクがある。また周りに豊かな自然が広がっているため、もみじの害虫にも気をつけなくてはならない。水やりなど適切な世話を継続しつつ、剪定や病気の対応などはプロにお願いし、園庭のシンボルツリーとして、末長く元気に育つよう守り育てていきたい。

以上